

令和元年度 第3回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

議 事 録

日 時：令和元年12月6日（金） 午前10時～11時

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：青山貴志（宮の森まちづくりセンター所長）、吉田重弘（宮の森明和会長）、國松明日香（彫刻家）、村上裕子（札幌市立三角山小学校長）、寺嶋弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館長） 以上5名

所 管 課：吉澤崇博（同文化振興課振興係事務職員）*委員代理としても出席

事 務 局：岩崎直人（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）、山田のぞみ（同業務係事務職員）

- 次 第：1 開会
2 議事
（1）令和元年度事業 経過報告
（2）令和2年度事業の企画状況
（3）意見交換
（4）その他
3 閉会

当日配付資料：

- ・令和元年度本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会委員名簿
- ・令和元年度第3回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館令和元年度事業経過報告
- ・令和2年度事業企画状況
- ・令和元年度開催事業チラシ等（6種）

議事内容：

（1）令和元年度事業 経過報告

事務局より配付資料に基づき、令和元年度9月から11月までの事業の経過報告を行った。また、10月から第3回本郷新記念札幌彫刻賞の募集を開始したことについて報告を行った。

（2）令和2年度事業の企画状況

事務局より配付資料に基づき、令和2年度事業計画について、企画練成、進捗状況について報告を行った。

(3) 意見交換

吉澤：フィン・ユール展の関連事業、講演会＋ギャラリートークで88人とたくさんのお客さんが駆けつけているというのは驚きである。

青山：国際交流という観点から連合町内会発行の「連町ニュース」に、館長にご執筆いただきよかった。

寺嶋：その分野は、当館の最も弱点と言えるところ。そのことを自覚できるよい機会となった。

吉田：宮の森中学校の文化祭に美術館所蔵の本郷新作品を出展していただき、よかった。当初予定していた地区の不出品もあったが、来年は大々的にやっていただきたい。美術館から飛び出るとするのはいいことではないか。

村上：総合的な学習の時間の枠で彫刻美術館を存分に活用させていただいている。美術館の裏側を子どもたちが垣間見られるというのは大変有意義。学習発表会では、その成果が発表される。子どもたちとともに私も学ばせていただいている。それと、中学校だけではなく、小学校にも作品を持ってきて子どもたちに見せて頂けるとありがたいと思う。

國松：人づてに宮の森中学校文化祭での展示が好評だったと伝え聞いている。こうした地域に根ざした活動の特徴とする美術館であることがマスコミに取りあげられるようになるとなおよいと思う。一方、国際交流の方面にも尽力していただきたい。そのことは札幌市も考慮に含めていただきたい。例えば、一人の彫刻家を取りあげたドイツ、デュイスブルクのレームブルック美術館が、この美術館ととても雰囲気似ていて、館相互の交流があるといいと思う。

村上：次年度の事業については、当校の校歌に「五輪の旗が翻る」という文言があり、この地区はオリンピックとの繋がりが強い地域であることを子どもたちに語り継いでいる。そういった意味でも次年度の「五輪の花束」展には注目している。

(4) その他

① 苦情報告

美術館への道中、館近くに野外彫刻《奏でる乙女》が設置されており、そこに生える松の木の落ち葉が甚大な量で困っているという住民からの報せを札幌市に伝え、土木課によって速やかに剪定されたという経緯を報告。

② 転倒してしまったコンクリート製彫像《鳥の碑》の復旧を次年度に向けて動き出し始めた旨を報告。

③ 次回開催日時は令和2年3月13日（金）午前10時～11時を予定。